

8-8

リスクマネジメントのシステム化

データを活かしたルールづくり

リスクマネジメント

システム化

社会福祉法人 芳洋会 日の出ホーム

ケアワーカー・瀬沼 光太

西多摩郡

共同研究者 酒井 岡部 鳴島 越沼

由利 遠藤 小林 勝原

TEL 042-597-2021

E-mail home29@hinodenode-home.or.jp

FAX 042-597-1973

URL www.hinode-home.or.jp/

特養日の出ホームは1972年に50床で開設スタートした。現在は介護老人福祉施設 200 床、併設の在宅サービスセンターひので理想郷の園定員 40 名、ショートステイ9床、居宅介護支援事業所、訪問介護の5 事業を職員数180名で行っている。東京多摩西部の緑豊かな環境の中、法人理念「安心と充実の人生を一緒に」を掲げ、時代に即した新しい介護サービスの提供を目指している。

<取組んだ課題>

○ 課題 『介護事故を予防・軽減すること』

○ 問題意識

・H15 年度リスクマネジメント委員会を発足研修会の企画、インシデントレポートの分析などを実施。しかし、実効性のある成果が見られなかった。そこで、問題を以下の2 点に整理した。

問題①収集したインシデントレポート・事故報告書を十分に活用できないこと。

・提出される報告書を入力・集計する作業量は莫大。担当者の負担が大きい。

・集計・報告が目的となってしまう、データを対策に結び付けられなかった。

問題②事故のレベルを分類し、段階に応じた対策を行っていなかったこと。

(事故のレベル)

1 ルール違反で起きる事故

2 職員のミスが原因で起きる事故。基本的な事故防止対策で防げる事故

3 基本的な事故防止対策で防げる事故。標準的な技術で防げる事故

4 事故防止のためには、高度な技術や特殊な知識を必要とする事故

5 どんな対策を講じても防げない事故

○ 課題の絞込み

そこで委員会の活動として、次の2 つを優先事項とし、介護事故の予防・軽減を図った。

問題①に対して「システムによる効率化を図る」

問題②に対して「基本的な事故を防止するためルールを定める」ことから始める。

<具体的な取り組み>

① インシデントレポートのシステム化

⇒コンピューターソフトを開発。18 年4 月より稼働開始。入力・集計・分析作業を効率化させる。

② ルール作り

⇒毎月の委員会において、ルール化が必要な報告をチェック。3 ヶ月に1 回、ルール化。経営層の承認を得て「芳洋会安心ルール」として施行。

③ 情報の共有化（新聞にて情報公開）

⇒「リスクマネジメントタイムズ」を毎月発行。

⇒3 ヶ月ごとに策定されたルールを紹介し、共有化。

⇒毎月集計されたデータを現場へフィードバック。

リスクに対する意識を高める。

⇒記事の内容は、今月の動向や、「誤薬」など特定の事故に焦点を絞った特集記事。

④ ①・②・③のPDCA サイクル化

⇒インシデントレポートシステムでデータを収集

⇒(Plan) 委員会で分析し、ルール化

⇒(Do) 現場へルールを導入。告知に新聞等を利用。

⇒(Check) システムでルール関連の事故を分析。

⇒(Action) ルールを改善。新しいルールを策定。

<活動の成果と評価>

① 月毎のデータを効率的に検索、分析が図れている（以前は、データ収集のみで終わっていた）

② 6 月にルールを策定済。周知・徹底に課題。

③ 新聞毎月発行中。周知度に課題。

④ PDCA サイクルを実行できている。

<今後の課題>

① ルール施行後の周知度・徹底度を向上させる。

② 新聞の周知度、活用度を向上させる。

③ ルール施行後の事故数の Check と Action plan

④ H19 年度事業計画に事故防止の優先項目と数値目標 (Action plan) を盛り込むこと

☆総括『介護事故予防・軽減』のシステム化は概ね達成出来た。今後はルールの浸透・周知・徹底・人材育成、そして具体的な数値での事故削減が課題。中長期目標として基本ルール策定以上のレベルへ活動を展開したい。